

旭川おおぞら認定こども園

令和5年度

園評価票

A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成

A-1-(1)-① こども園の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	全体的な計画は、こども園の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じ作成している。	B
B	全体的な計画は、こども園の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じ作成しているが、十分ではない。	
C	全体的な計画は、こども園の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じ作成していない。	

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開

A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	B
B	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備しているが、十分ではない。	
C	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備していない。	

A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	B
B	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っているが、十分ではない。	
C	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っていない。	

A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	B
B	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っているが、十分ではない。	
C	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っていない。	

A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	B
B	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開しているが、十分ではない。	
C	子どもが主体的に活動できる環境の整備や、子どもの生活と遊びを豊かにする保育が展開されていない。	

A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	B
B	適切な環境を整備し、保育内容や方法に配慮しているが、十分ではない。	
C	適切な環境、保育の内容や方法に配慮されていない。	

A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	B
B	適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮しているが十分ではない。	
C	基本的な生活習慣を身につけ、身体的な活動ができるよう環境が十分整備されていない。	

A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	B
B	適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮しているが、十分ではない。	
C	適切な環境、保育の内容や方法に配慮されていない。	

A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	B
B	障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育内容や方法に配慮しているが、十分ではない。	
C	障害のある子どもが安心して生活できる環境の整備、保育の内容や方法に配慮していない。	

A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	B
B	それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮しているが、十分ではない。	
C	それぞれの子どもの在園時間を考慮した保育環境の整備、保育の内容や方法に配慮していない。	

A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	小学校との連携、就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	C
B	小学校との連携、就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮しているが、十分ではない。	
C	小学校との連携や就学を見通した計画、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮していない。	

A-1-(3) 健康管理

A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	子どもの健康管理を適切に行っている。	A
B	子どもの健康管理を適切に行っているが、十分ではない。	
C	子どもの健康管理を適切に行っていない。	

A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	A
B	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映しているが、十分ではない。	
C	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映していない。	

A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け、適切な対応を行っている。	A
B	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け、適切な対応を行っているが、十分ではない。	
C	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、適切な対応を行っていない。	

A-1-(4) 食事

A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	食事を楽しむことができるよう工夫している。	B
B	食事を楽しむことができるよう工夫しているが、十分ではない。	
C	食事を楽しむことができる工夫をしていない。	

A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	A
B	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供しているが、十分ではない。	
C	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供していない。	

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭との緊密な連携

A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	A
B	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っているが、十分ではない。	
C	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っていない。	

A-2-(2) 保護者等の支援

A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	B
B	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っているが、十分ではない。	
C	保護者が安心して子育てができるようにするための支援を行っていない。	

A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	B
B	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めているが、十分ではない。	
C	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めていない。	

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り

A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	B
B	保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めているが、十分ではない。	
C	保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)に取り組んでいない。	

A-4 苦情解決体制

A-4-(1)-① 苦情解決の仕組みが確立されており、周知・機能し保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	苦情解決の仕組みが確立され保護者等に周知する取組が行われるとともに仕組みが機能している。また、保護者が相談したり意見を述べたい時に方法や相手を選択できる環境が整備されている。	B
B	苦情解決の仕組みが確立され保護者等に周知する取組が行われているが十分に機能していない。また、保護者が相談したり意見を述べたい時に方法や相手を選択できる環境が整備されているが十分ではない。	
C	苦情解決の仕組みが確立していない。また保護者が相談したり意見を述べたい時に、方法や相手を選択できない。	

A-4-(1)-② 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	保護者からの相談や意見を積極的に把握し、組織的かつ迅速に対応している。	A
B	保護者からの相談や意見を把握しているが、対応が十分ではない。	
C	保護者からの相談や意見の把握をしていない。	

A-5 安全管理

A-5-(1)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	リスクマネジメント体制を構築し、子どもの安心と安全を脅かす事例の収集と要因分析と対応策の検討・実施が適切に行われている。	B
B	リスクマネジメント体制を構築しているが、子どもの安心と安全を脅かす事例の収集や要因分析と対応策の検討・実施が十分ではない。	
	リスクマネジメント体制が構築されておらず、子どもの安心と安全を脅かす事例を組織として収集していない。	

A-5-(1)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	感染症の予防策が講じられ、発生時等の緊急時の子どもの安全確保について組織として体制を整備し、取組を行っている。	A
B	感染症の予防策が講じられ、発生時等の緊急時の子どもの安全確保について組織として体制を整備しているが、取組が十分ではない。	
C	感染症の予防策が講じられていない。	

A-5-(1)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	地震、津波、豪雨、大雪等の災害に対して、子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	B
B	地震、津波、豪雨、大雪等の災害に対して、子どもの安全確保のための取組を行っているが、十分ではない。	
C	地震、津波、豪雨、大雪等の災害に対して、子どもの安全確保のための取組を行っていない。	

A-6 地域支援機能

A-6 地域の福祉向上のための取組を行っている。

A-6-(1)-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。

評価

判断基準		(A・B・C)
A	地域の具体的な福祉ニーズ・生活課題等を把握するための取組を積極的に行っている。	B
B	地域の具体的な福祉ニーズ・生活課題等を把握するための取組を行っているが、十分ではない。	
C	地域の具体的な福祉ニーズ・生活課題等を把握するための取組を行っていない。	

A-6-(1)-② 地域の子育て支援ニーズに応じて施設の専門性を活かしたサービスを提供している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	地域での子育てサービス（園開放、子育て相談等）を提供し、地域の子育てニーズについて職員間で話合われている。	B
B	地域での子育てサービス（園開放、子育て相談等）を提供し、地域の子育てニーズについて職員間で話合われているが十分ではなく改善が必要である。	
C	地域での子育てサービス（園開放、子育て相談等）を提供していない。	

A-7 ボランティア・実習の受入

A-7-(1)-① ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢が明示されており、受け入れについての体制が整備されている。	B
B	ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢は明示されているが、受け入れについての体制が十分に整備されていない。	
C	ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢が明示されていない。	

A-7-(1)-② 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等、積極的な取組を実施している。	B
B	実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備はしているが、効果的な育成プログラムが用意されていないなど、積極的な取組には至っていない。	
C	実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備しておらず、教育・研修が行われていない。	

A-8 職員の人材育成

A-8-(1)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	職員一人ひとりの育成に向けた目標管理等が、適切に行われている。	B
B	職員一人ひとりの育成に向けた目標管理等が行われているが、十分ではない。	
C	職員一人ひとりの育成に向けた目標管理が行われていない。	

A-8-(1)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	こども園として職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	B
B	こども園として職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定されているが、内容や教育・研修の実施が十分ではない。	
C	こども園として職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定されていない。	

A-9 施設長のリーダーシップ・主任の役割

A-9-(1)-① こども園の理念や基本方針等について職員に周知されている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	理念・基本方針を明文化したものを掲示又は職員に配布し、理解を促すための説明を行っている。また、職員が理解できているか、園長・主任が確認（採用時・採用後年1回）	B
B	理念・基本方針を明文化したものを掲示又は職員に配布し、理解を促すための説明を行っているが十分でなく改善が必要である。	
C	理念・基本方針を職員に説明・理解させていない。	

A-9-(1)-② 重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	重要な意思決定（変更）にあたり、園長は職員や保護者に目的・決定（変更）理由・経過等を十分に説明している。	B
B	重要な意思決定（変更）にあたり、園長は職員や保護者に目的・決定（変更）理由・経過等を説明しているが十分でなく改善が必要である。	
C	重要な意思決定（変更）にあたり、園長は職員や保護者に目的・決定（変更）理由・経過等を説明していない。	

A-9-(1)-③ 主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	主任が個々の職員の業務状況を把握しており、能力や経験に合わせた確な助言や指導を行っている。	B
B	主任が個々の職員の業務状況を把握しており、能力や経験に合わせた確な助言や指導を行っているが十分でなく改善が必要である。	
C	主任が個々の職員の業務状況を把握しておらず、助言や指導を行っていない。	

A-10 効率的な運営

A-10-(1)-① 外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	事業運営に影響のある情報の収集・分析をし、重要な情報は幹部職員や主要な職員間で共有するとともに、重要な改善課題は職員に周知し園全体で取り組んでいる。	B
B	事業運営に影響のある情報の収集・分析をし、重要な情報は幹部職員や主要な職員間で共有するとともに、重要な改善課題は職員に周知し園全体で取り組んでいるが十分でなく改善が必要である。	
C	事業運営に影響のある情報の収集・分析をしていない。	

A-10-(1)-② こども園運営に関して、中長期的な目標を設定している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成し、次代の組織運営に備え運営やサービスプロセスなどを検討している。	B
B	中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成し、次代の組織運営に備え運営やサービスプロセスなどを検討しているが十分でなく改善が必要である。	
C	中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成していない。	

施設のアピールポイント及び課題

	アピールポイント	課 題
A-1 保育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の保育者が工夫しながら子どもの発達に合わせた保育を工夫して行い、生活習慣を身に付ける援助や健康管理を行っている。 ・コロナが明けて、クッキングを再開している。 ・障がいのある子どもを職員全員で見守り、成長を喜び共有している。 ・子どもが美味しく安心して食べる事が出来る食事を提供している。 ・ヒヤリハットを共有し、生活にふさわしい場、安心して心地よく過ごせる環境の整備を考え行っている。 ・英語教室・体操教室を行う事で、子ども達の成長や、出来る様になった事を職員全員で共有し発達を喜んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・寒い時期になると園舎の床が冷たく、未満児クラスの子も達は裸足で過ごしているため足が冷えてしまう。 ・乳児の保育室で身体を動かす子どものスペースと、ゴロゴロできる別々のスペースがあれば良い。 ・園庭の遊具が少ない。 ・短時間延長の子どもが時間が来た時に過ごす場所の工夫。 ・未満児・以上児の関わりが減っている。 ・障がいのある子どもが安全・快適に過ごす事が出来ているのか。 ・意欲的に食事ができる様な、食育への工夫があれば良い。 ・小学校との関わりや連携を増やす。
A-2 子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時、保護者に、子どもの様子を伝えたり雑談をしながら信頼関係を築き、話しやすく相談しやすい雰囲気を作っている。 ・保護者の要望をできるだけ取り入れる様にしている。 ・保護者と情報共有する事で子どもの成長を一緒に見守り保育している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・沢山話はしても、保護者の本心をなかなか聞き出す事が出来ていない。 ・登降園の時間が守られていない家庭への対応。
A-3 保育の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な研修に参加し、終了後に情報共有している。 ・自己評価による保育の振り返りが出来ている。 ・保育に困った時に互いにアドバイスをしたり、話し合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者同士でどのような保育が適切、不適切かを話しあう事が必要。
A-4 苦情解決体制	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの話をしっかりと聞き、大きな苦情になる前に対応している。 ・話をしやすいように日頃から保護者との信頼関係をつくっている。 ・保護者からの話を職員で話し合い、改善策を職員同士で話し合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の意見を何でも取り入れてしまうと、園のルールとしてずれてしまう事もある。 ・担任に苦情を伝えたら子どもに影響があると不安に感じ、保育者に本音を話すことが出来ない保護者への対応。
A-5 安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の掲示を保護者にわかりやすく玄関に掲示し、コードモンで配信している。 ・散歩コース・遊具の点検をしっかりと 	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者が入ってきた時の子どもたちの守り方、対応について。 ・地震・火災の訓練は行っているが、豪雨

	<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の掃除や消毒・殺菌をしっかりと行っている。 ・嘔吐処理キッドの確認を毎月行い、新しく入った職員に嘔吐処理の研修を行っている。 ・朝の受け入れ時に子どもの視診をしっかりと行っている。 ・毎月の避難訓練の実地。 	<p>や台風・豪雪になった時の訓練の必要性や、実際に地震・火災になった時の災害時に訓練のようにスムーズに対応できるか不安がある。また未満児クラスの場合はすぐにカートを出し、避難できるか心配。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園外に行った時、迷子になった子どもへの保育者の対応や動き。
A-6 地域支援機能	<ul style="list-style-type: none"> ・園開放での利用者が多く、その中で子育て相談をしている。 ・気軽に園見学ができるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園開放や図書貸し出しはしているが、地域との関わりは少なくニーズを知る方法が分からない。
A-7 ボランティア・実習の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・各養成機関の都合に合わせて受け入れを行っている。 ・マニュアルが確立され、受け入れ体制が整っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの受け入れのアピール方法 ・図書館などと協力して絵本の読み聞かせをしてもらうなどの利用の仕方。
A-8 職員の人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修や新人職員を対象とした研修を行っている。 ・職員にとって何の知識が必要かを見極め研修を受けるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員数が少なく、1つの研修に複数で参加する事が出来ない。
A-9 施設長のリーダーシップ・主任の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・悩んでいる時にしっかりと向き合って改善してくれる。 ・些細な事でも迅速に対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員や保護者等のコミュニケーションを今まで以上にとれる時間や機会を増やしてく。
A-10 効率的な運営	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤保育士が少なくても、パート保育士の活用や職員間で協力をしながら保育を遂行出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部的な要因もあることから、臨機応変に運営ができるように一層改善していく。